

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3070101849
法人名	医療法人 萌梅会
事業所名	総合介護センター あおばの里
訪問調査日	平成 20年 6月 9日
評価確定日	平成 20年 7月 14日
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3070101849		
法人名	医療法人 萌梅会		
事業所名	総合介護センター あおばの里		
所在地	和歌山市湊1115-55 (電話)073-424-2252		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52ハラダビル2F		
訪問調査日	平成 20年 6月 9日	評価確定日	平成 20年 7月 14日

【情報提供票より】(平成20年 6月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13年 3月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	21 人	常勤 14人, 非常勤 3人, 常勤換算	13.4人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	25,600 円	
敷金	有(360,000 円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,100 円	

(4)利用者の概要(平成20年 4月30日現在)

利用者人数	25 名	男性	4 名	女性	21 名
要介護1	1 名	要介護2		3 名	
要介護3	6 名	要介護4		12 名	
要介護5	2 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 82 歳	最低	58 歳	最高	100 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	古梅記念病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大きな工場の近くの住宅街に位置している建物はゆっくり行かないとつい通り過ぎてしまうほど、町並みに透過している。総合介護センターの建物の1階部分はデイサービスと1ユニット、2階部分に2ユニットの、計3ユニットのホームで、夏場は露天ぶるも楽しめ、広い芝生のある庭先では野菜作りも行われている。職員の年齢はさまざまだがアットホームな明るい雰囲気の中でチームワークよくケアが提供されている。母体の法人が設立した病院と連携がとれ、医療面での安心が得られている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回は地域、行政との交流について改善提案された。地域の行事への参加や近隣の入居者の家族、知り合いの訪問から、地域との関係もできつつあるが市との連携は進展していない。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>具体的な取り組みの実施には至っていないが、皆で取り組んでいこうとしている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>今年5月に開催されたが、議事録は残されておらず、民生委員の新旧の交代を機に見学会のような形で管理者、施設長から事業所の紹介をすに留まった。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族に対しては電話連絡をそのつど行っており、訪問時には気軽に意見、要望を話してもらえる関係がほとんどの家族と築けている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の入居者の家族、知り合いの訪問から、地域との関係もできつつある。また地域内で行われる年1回6月初旬のあやめ祭りに参加、季節のドライブお花見や、花火など季節ごとに地域交流を行っている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自宅と同じように、自分らしく暮らすという内容の独自の理念が和紙に手書きで書かれ各フロアーに掲げられていた。地域密着サービスとしての役割については明文化されていない。		住み慣れた地域で安心された生活を過ごすためには、地域密着サービスとしての役割を意識した理念を加えることが望ましい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り時に職員が復唱し、職員全員が共有し日常的に意識できるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の入居者の家族、知り合いの訪問から、地域との関係もできつつある。また地域内で行われる年1回6月初旬のあやめ祭りに参加、季節のドライブお花見や、花火など季節ごとに地域交流を行っている。		
地域との関係も					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善への具体的な取り組みの実施について職員全体には十分理解できていないところもあるが、前回提案された地域との交流、地域への発信については徐々に改善されてきている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	初めての運営推進会議が今年5月民生委員9名と管理者、施設長で開催された。民生委員の新旧の交代を機に見学方々事業所の紹介をするに留まり、議事録は残されていない。		運営規定に記されているように運営推進会議のメンバーに利用者、家族、行政の職員など外部の人々を加え、地域の理解と支援を得られるよい機会として大いに活用できるような取組を行ってほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	業務が忙しいこともあり積極的とは言えないが、相談、情報収集等を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書を送るときに今月、次月の行事内容、伝達事項など一緒に送付している。また、随時「あおばの里便り」も発行され、行事の写真等を掲載して伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情を表してもらっている人は限られているが、訪問時には気軽に意見、要望を話してもらえる関係がほとんどの家族と築けていいる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員にとって働きやすい条件が整えられており、この2年ぐらい職員の移動や離職が無い。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を確保し支援している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列の施設サービス提供現場を見学している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの見学や、併設のデイサービスの利用から徐々に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日によってシャツの色は各自選べるが外出時には職員全員が同じ色の制服を着ていた。入居者が職員の指示に従っているように見受けられるところがあり、入居者同士の会話などはあまりなかった。		職員は、お世話する人ということではなくではなく、入居者にとって対等な関係ととらえてもらえるような意識を持ち働きかけることが必要と思われる。
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの入居者に関する情報の記入は少ないが、申し送りノートの活用で気がついたことや希望などを共有し、入居者がその人らしく暮らし続ける支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画について家族に説明し、希望を聞いて作成している。また、毎朝のミーティングで体調変化時にカンファレンスをもち、介護計画書に反映させている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回計画を見直すとともに本人の状態に応じて変更されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	併設のデイサービスと交流できる。系列病院との連 携で医師の訪問が毎日あり、入院中には洗濯の支 援もおこなう。入院に伴う退居への不安は、系列病 院との連携により解消された。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得ら れたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように支援している	専門医の受診は家族の希望に合わせている。ほと んどの家族は提携している病院を希望し往診を受 けている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	入居時に終末期に向けて家族との話し合いを行 い、状態変化時には、その都度家族、主治医、責 任者等で話し合っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	方言が多くアットホームな雰囲気ではあるが、入居 者の誇りへの配慮を欠くと思われる職員の言動が 見られた。		何気ない言動が入居者の誇りを損ねていないか時々 振り返ってみることが望まれる。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の開始がいつせいで、「いただきます」まで待 たせていたのが気になったが、入浴時などについ ては個々にそって支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業者からの取り寄せで栄養管理は行き届くが、入居者の希望や共にできることへの支援はあまり考慮されていない。食事は職員も一緒にできが、昼食は3ユニットとデイの分を1か所で職員のみが作っている。		入居者と共に献立を考え、買い物、調理、盛り付け、食事、後片付け、食事を1日の大切な活動の一環とすることが望ましい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間を問わず、希望に添えるように支援している。夏場は露天風呂を楽しんでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	縫物、ちぎり絵、野菜の収穫など、できるように支援しているが、ひとり一人の生活歴を把握し、それぞれに合わせた役割というところまでは考慮されていない。		得意分野で入居者の方々の力を発揮してもらえるように、個々の入居者の情報や生活歴などを記録して共有し、把握することが必要と思われる。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に合わせて朝食の買い物やおやつを買いに一緒に行くよう支援しているが、徐々に外に行く人が少なくなってきた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	デイサービスと出入り口が同じなので、デイの利用者と見分けがつきにくく、デイの帰宅願望の強い新しい入居者が暮らしに慣れるまで外へ出ていくことを防ぐため、出られないことが解るようにエレベーターの鍵をかけることがある。		入居して間もない入居者の不安を取り除く対応を工夫し、本人の行動パターンを理解し、鍵に頼らず見守りを重視し自由な暮らしを支援することが望ましい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地震対策、水害など、災害のマニュアルや訓練非難場所の熟知については不十分なところもあるが年に1回本人を交えての火災訓練は行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算などは一週間のメニューに書かれている。食事はチェックされており、水分は声掛けを行っていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	デイの利用者と同じところから出入りするようになっている。テーブルやいすの配置が集団生活に合ったような形になっており、一人になれ、その上スタッフの目が届くようなところが無い。		入居者が一人や、気の合った者同士で個々に生活を楽しめるように、テーブルや椅子、ソファなど家具の配置を工夫することが望まれる。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで自宅で使っていた家具や衣類などなじみのものを持ち込めるように支援している。		